

平成29年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅱ期）

《臨床心理専攻》

専門科目（臨床心理学）

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 3枚、解答用紙 4枚、下書き用紙1枚である。  
指示があつてから確認し、解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は、持ち帰ること。

受験番号

# 《臨床心理專攻》

## 専門科目 問題

1 臨床心理学についての次の問題にこたえなさい。

問1. 乳幼児の発達に関わる以下の人物と最も関わりの深い語句を選べ。

- (1) Freud,S.
- (2) Bowlby,J.
- (3) Winnicott,D.W.
- (4) Piajet,J.
- (5) Erikson,E.H.

- |             |            |            |
|-------------|------------|------------|
| (ア) 移行対象    | (イ) 基底欠損   | (ウ) 基本的信頼感 |
| (エ) 早期幼児自閉症 | (オ) 感覚一運動期 | (カ) 愛着     |
| (キ) エディプス期  |            |            |

問2. 次の①～⑩で説明されている人物名を述べよ。

- ① クライエント中心療法の考え方に基づいて子どもの遊戯療法を行った実践家。
- ② 精神分析医。アメリカで発展した自我心理学にイギリスの対象関係論を取り入れた独自の自我心理学的対象関係論を樹立した。独自の人格構造論を提唱し、境界（例）の臨床的理解を深めた。
- ③ 死に直面している人々にインタビューを行い、死の受容について『死ぬ瞬間』という著作にした。
- ④ アメリカの心理学・哲学者。クライエント中心療法の発展に貢献し、人の中に流れている感情の過程を「体験過程」とし、人格変化は治療者の言語的・態度的によって、体験過程が新しく推進し始めることであるとした。
- ⑤ フランスの精神科医。想像界・象徴界・現実界という次元を考察し、排除・ファルス・法・無・享楽・剩余快楽など、次々と新しい概念を生み出した。
- ⑥ 日本の精神科医。統合失調症の治療論をすすめた。風景構成法の創案者。
- ⑦ ユダヤ人医師。アウシュビツ強制収容所に送られた体験をもつ。人間を自由と責任のある存在として捉え、実存分析の概念を唱えた。
- ⑧ アメリカの心理学者。自己実現の研究を行った。人間の生来的欲求には優先性の階層があるとした。
- ⑨ スイスの精神科医。フロイトが無意識を個人的なものと捉えていたのに対し、無意識を2層に分け個人的無意識と普遍的（集合的）無意識を仮定した。
- ⑩ ウィーンに生まれ、ロンドンで対象関係論の基礎を築いた精神分析家。幼児の分析をもとに、分裂機制、取り入れ、投影性同一視の重要性を解明した。

問3. 認知療法・認知行動療法についての以下の問題にこたえなさい。

(1) 認知療法について説明した以下の文を読み、空欄に当てはまる言葉を答えなさい。

認知療法の本質は、患者の認知の歪みのは正に向けられている。そのは正の直接的治療対象は（①）であり、これは患者の思考に熟慮なく飛び込んでくる習慣的思考である。さらに（②）と呼ばれる上位の概念が（①）の背景にあり、幼児期より次第に形成されるが、（②）も認知療法の重要な治療ないし、予防の対象である。

(2) 以下に挙げるのは、Beck, A.T.の指摘した“症状をもたらす体系的な推論の誤り”である。それについて簡潔に説明しなさい。

- a. 自己関連づけ
- b. 絶対的二分法的思考
- c. 過度の一般化

問4. 心理療法におけるセラピストの逆転移の意義と弊害について、具体例を挙げながら記述しなさい。

2 以下の事例をふまえた上で設問に答えよ。

<事例>

あなたは前任カウンセラーから引き継いで、小学6年生男子 Aくんの担当カウンセラーになりました。

a. Aくんは、こだわりが強く、集団行動が苦手であることから、小児科においてASDと診断されています。 b. 3年前に初めて心理相談室に来談したときは、「(相談室に行くと)遊べるんだって。」と母に言われ、Aくん自身も特に疑問をもつこともなく楽しく来談していました。

小6の4月になって担当カウンセラーが交代したときも特に混乱はありませんでした。プレイセラピーでは楽しく遊んでいて、セラピストとしても治療関係が出来てきた感触をもっていたのですが、小6の2学期の中頃から学校行事や体調不良を理由としたキャンセルが多くなってきました。 c. そして、Aくんは「(カウンセリングに行く意味がない。話すことがない。)と来談を拒否するようになりました。

お母さんの担当カウンセラーによると、Aくんはこれまで学校を休むことはなかったが、小6の2学期の終わり頃から学校を休むことが増えている。また、家では昼夜逆転してゲームをし続けている、とのことでした。

カウンセリングについては、お母さんとの間で次回の約束をして待っていましたが、1ヶ月以上経っても Aくんは来談しなかったため直接話し合うことが出来ません。 d. まだ継続が必要ではないかと考えるあなたは、Aくんに手紙を書こうと考えています。

問1: 下線 a.について

ASDとは何の略語でしょうか。日本語で答えなさい。さらに、ASDの特徴について詳しく述べなさい。

問2: 下線 b.について

プレイセラピーの場合、いわゆる治療契約について話題にすることのないまま面接が始まることも少なくありません。①プレイセラピーにおける治療契約とはどのようなものでしょうか。それについて述べなさい。また、②プレイセラピーで治療契約について話題にすることの意義について、述べなさい。

問3: 下線 c.について

このようなAくんの変化について、どのように考えたらよいでしょうか。あなたの見立てを詳しく述べなさい。

問4: 下線 d.について

あなたならどのような手紙を書きますか。実際の状況を想定して Aくん宛の手紙の文面を書きなさい。